

世と教界を見る目を養う(2)

=バビロンとの関わり=

- ①アッシリアによる滅亡(BC.721):サマリアの状態(2列王記17:23-33)→それぞれの民族の神が祭られる(シンクレティズム);今日ではヒューマニズムとニューエイジ思想が蔓延している
- ②バビロニアの興亡:シヌアルの地(ニムロデ)BC6000年ごろ→初期王朝(BC2900-2334)→アッカド帝国(サルゴン1世、BC2334-2154)→ウル第3王朝(BC2120-2004)→バビロニア統一(ハンムラビ)→アッシリア王支配(BC850)→新バビロニア(ナボポラッサル、BC625-539)→ネブカデネザル2世(BC605)→ペルシャによる支配(クロス、BC539)
- ③ヒゼキヤ王の思惑とバビロンへの対応(2列王20:12-19、イザヤ39:1-8):アッシリアへの対抗としてバビロンと手を結ぶ思惑→滅びへと招く
- ④ネブカデネザル、エホヤキムを攻める(2列王24:1-5;2歴代誌36:5-8)
- ⑤ネブカデネザル、エルサレムを占領(2列王24:10-17;25:1-21;エレミヤ39:1-10)
- ⑥バビロンによる制圧(マタイ13章):いのちが世の生活の患いや困難によって窒息する様
- ⑦主の真実と私たちの不真実(ローマ3:3-7;2テサロニケ3:3)
- ⑧地の塩の役目(マルコ9:50;コロサイ4:6)と運命(マタイ5:13):世との関わりの原則=世の者ではないが、世にいる者として生きる(2コリント4:6-11)